



「クリスマスオーレンジ」の説明や雰囲気を感じてほしいという思いで、クリスマスカード、メッセージカードを添えてプレゼントする。クリスマスオーレンジのイラストも、おまけにクリスマスカード、メッセージカードを添えてプレゼントする。



「クリスマスオーレンジ」の説明や雰囲気を感じてほしいという思いで、クリスマスカード、メッセージカードを添えてプレゼントする。

冬のフルーツが手に入りにくかった北国カナダでは、日本から輸入した温州みかんは「クリスマスオーレンジ」と呼ばれています。クリスマスにプレゼントすることが冬の風物詩になっています。

は、愛媛から東日本大震災の被災地へ温州みかんを送られ、話題になりました。そこで、クリスマス

愛媛県では温州みかんのほか、生産量、質ともに日本一を誇るいよかんや紅マドンナなど、プレゼントにはうってつけの高

ゼントしてはどうでしょう。インターネット等でおしゃれでかわいい専用カードが公開されています。今年のクリスマスに

たかがみかん、されどみかん。「トラは死して皮を留め」といわれますが、みかんの皮が観光資源として役立つのです。

松山の学生がこころをまちづくりフリーペーパー

# まちづくり まつやま新聞

MATSUYAMA NEWS PAPER No. 15

●発行 坂の上の雲ミュージアム 指定管理者 西電ビズネス株式会社 愛媛支店 松山市一番町3丁目20番地 ☎089-915-2600  
●編集 まちづくり!! まつやま新聞 編集委員会  
●協力 坂の上の雲ミュージアム 七ヶ株式会社  
●発行部数 25,000部  
松山市内の市有施設(一部を除く)ほか、坂の上の雲ミュージアム、ローブウェイ駅舎、道後温泉観光案内所ほか、観光拠点で無料配布



坂の上の雲ミュージアムにお目見えした「みかんツリー」

## 心温まる

# クリスマスオーレンジ

## かんきつ王国・愛媛から全国へ

# レポート まちづくり最前線

## 瀬戸内海航路で観光ガイド

松山一呉を結ぶフェリー船上でボランティアガイドの方々が観光ガイド。約千年におよぶ瀬戸内海の歴史ロマンに思いをはせました。

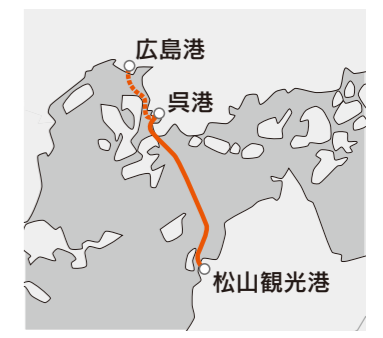
広島県呉市の呉港と松山市の松山観光港を結ぶフェリーで観光ガイドのサービスがあると聞き、体験してきました。ガイド役は両市の観光ボランティアガイドの方が2人1組で、約2時間の乗船時間のうち約40分程度、景色を見ながら島々の歴史や自然などを解説してくれます。

松山観光港から出航すると航路周辺海域がイラストで描かれたオリジナルマップ「千年浪漫航路」を手渡されます。これ、デザインもカッコよく、おみやげにもピッタリ。松山沖の忽那諸島を眺めながら室町時代に活躍した水軍の歴史、呉市沖の「音戸の瀬戸」を通りながら情感たっぷりに平清盛にまつわる伝説などを聞き、自衛隊の潜水艦や船が浮かぶ呉港へ。瀬戸内海を舞台とした約千年の物語を夢中で聞いていると、あつという間に到着していました。

ガイドをしていただいた「松山観光ボランティアガイドの会」の月原登哲会長と「呉観光ボランティアの会」の山元利成会長は「乗船される方との出会いや対話が楽しみ」と穏やかな笑顔で見送ってくれました。呉港からは連絡橋で「大和ミュージアム」、JR呉駅にも直結し、便利。申し込みは、2人以上で1週間前までに要予約。



島々を眺めながらガイドをしてくれる山元さん(左)と月原さん



ガイド料2000円、10人以上の団体無料(乗船料別途)。問い合わせは石崎汽船、瀬戸内海汽船 ☎089-953-1003 (加藤なつみ)

## オリジナルスイーツ登場!!



「ふるさと空」は松山市の洋菓子店「パティスリー・ルブラン」のオーナーシェフ鎌田琢弥さんの力作。8月、坂の上の雲ミュージアムの開館5周年記念イベントとして開催された「オリジナルスイーツコンテスト」で厳正な審査でグランプリを獲得。

この審査には野志克仁松山市長や地元放送局の女性アナウンサーらとともに小紙編集委員も参加。どの作品も甲乙つけがたい美味しさと独創性が見事で、細部までデザインにこだわる

坂の上の雲ミュージアム2階のカフェに絶品スイーツ「ふるさと空」が登場。上品な和三盆のクリームと県産の栗のkokoroと風味が程よく溶け合ったロールケーキで、和三盆を使った綿菓子もふんわりと乗り、お好みで濃厚な黒蜜をかけていただきます。

パティシエの個性が光るものばかりでした。

9月からグランプリを受賞した「ふるさと空」が特別に販売開始となり、土日・祝日のみ1日20食限定、ドリンクとセットで500円です。

世界的建築家、安藤忠雄さんが設計した同館のカフェで、窓いっぱい広がる城山の森を眺めながら、ゆったりとしたカフェタイムをお楽しみください。(加藤・山本)

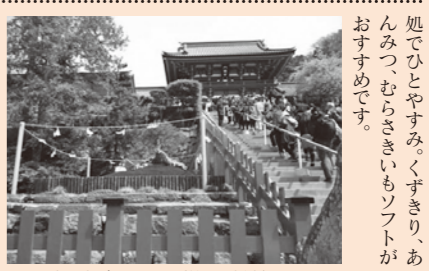


真剣に審査する小紙編集委員の学生ら

## 神奈川通信 子規が歩いた鎌倉

「坂の上の雲」に描かれた人物は、神奈川と深い関わりがあります。今回は正岡子規の歩いた古都鎌倉を紹介いたします。子規は、明治26年に鎌倉を訪れて「鎌倉一見の記」を残しています。藤沢から由比方浜を経て、教科書にも載っている建長寺や円覚寺、源頼朝の墓や大仏などを回り、句を残しました。

子規は、鎌倉幕府三代将軍の源実朝を歌人として高く評価しています。実朝は、鶴岡八幡宮にて二代将軍頼朝の子、公に暗殺されてしまいます。



ここに大銀杏がありました(鶴岡八幡宮)



東日本大震災被災地からの生の声と映像を愛媛県でも共有し、復興支援に役立てようと、坂の上の雲ミュージアムで、シンポジウム「新聞「三陸新報」が見た気仙沼の一年」を7月28日に松山市などの主催で開催。小誌を編集する愛媛大学の学生約10人もスタッフとして汗を流しました。

松山やうへ気仙沼へー

共に歩もう 紡ぎ合おう

坂の上の雲ミュージアム 開館5周年記念 東日本大震災被災地復興支援シンポジウム

新聞「三陸新報」が見た 気仙沼の一年



気仙沼の現状などについて 基調講演を行う渡邊専務

シンポジウムは、気仙沼市の地元新聞「三陸新報」を発行する三陸新報社の渡邊真紀専務の基調講演の後、渡邊専務、坂の上の雲ミュージアムの松原正毅館長、東温市の「坊っちゃん劇場」などで活躍する気仙沼出身の女優・吉田葵さんによるパネルディスカッションが行われました。基調講演では渡邊専務がプロジェクターを使い、震災や復興の様子を紹介。参加した市民らは、震災前後の現場写真に真剣な面持ちで見入っていました。



気仙沼の伝統芸能を力いっぱい披露する吉田さん

その後、吉田さんが気仙沼市を中心に宮城県や岩手県に伝わる伝統芸能などを披露。被災した地域に受け継がれる歌や踊りに会場は盛り上がりました。また坂の上の雲ミュージアムでは、8月20日まで三陸新報社が記録した震災の写真と松山市から被災地に派遣

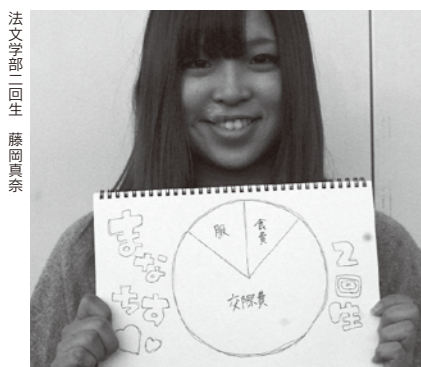
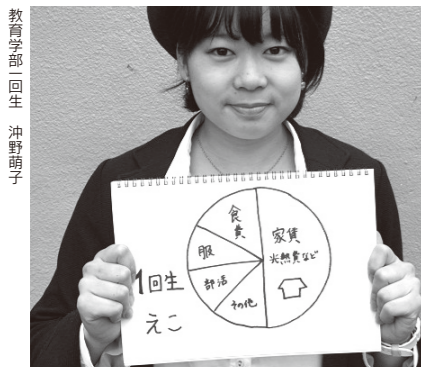


震災と復興、故郷をテーマに意見交換されたパネルディスカッション

学生50人に聞いたー

消費税増税、どう思う? どうする?!

国民にとって一番身近な消費税の増税について、松山市在住の学生はどう考えているのでしょうか? 愛媛大学のキャンパスで学生にインタビューしてみました。「財政が苦しいからしょうがないが、使われ方がよく分らないので不信」という意見が目立ち、増税に際しては「食費を節約」が大半を占めました。あなたは、どう思われますか?



法文学部三回生 橋本悠美

バイトはしていますが、実家暮らしです。政府の使えるお金を増やしたいというところは理解しますが、消費税の増税には反対です。今まで政府がしてきた失敗や借金が増えるのは、国民にはかなり負担をかけるので、楽しみを削ると節約が続かないような気がしますし...と困惑した表情で答えてくれました。(矢野橋本、宇都宮、山内)

給食の牛乳はどこから来るの? 20代の酪農後継者に突乳取材 「牛乳」好きで、多い時には二日リットル以上消費する、乳、豪な私。ということで今回は松山市の酪農家、中谷祐輔さん(22)の牛舎を訪ねてきました。



故郷の牛舎で働く中谷さん

は熱い思いが伝わってきました。また、自身が暮らす地域についても、「ここが好きだから、ここで酪農をやっている。酪農を続けながら、故郷も守っていききたい」としっかりと口調で語っていました。酪農、そして故郷とまじめに向かい合う中谷さんが作る愛媛の牛乳。骨太な体づくりと地域を支えることは、愛媛のまじめな牛乳でつながっていたのです! 私も微力ながら牛乳を飲んで骨太になることで、愛媛の酪農を支えていきたいと思いました。(浅木、武部、松田)

牛舎は市中心部から南へ車で約40分の山里、奥九谷にありました。自然豊かな奥九谷は静かで過ごしやすく、臆病な牛たちを飼育するのに適しているそうです。周囲を緑に囲まれた牛舎ではホルスタインを中心に成牛と子牛、計40頭程の乳牛を飼育し、午前6時と午後6時の2回、機械で搾乳を行っています。愛媛大学農学部を今春卒業された中谷さんは、幼いころから酪農を営む両親の姿を見



牛舎に居並ぶホルスタイン

人と食

まちづくり掲示板 イベントのお知らせ

坂の上の雲ミュージアム ウィンター イルミネーション  
 子規記念博物館 平成24年度特別展 「水野広徳—軍服を脱いだ平和主義者—」  
 松山市立子規記念博物館 平成24年度特別展 「水野広徳—軍服を脱いだ平和主義者—」

松山市立子規記念博物館 平成24年度特別展 「水野広徳—軍服を脱いだ平和主義者—」  
 松山市立子規記念博物館 平成24年度特別展 「水野広徳—軍服を脱いだ平和主義者—」